

令和8年度生成A I を活用した経営支援モデルの構築に向けた実証業務
公募型プロポーザル選定委員会議事要旨(第2次審査)

項目	内容
1	日時 令和8年5月20日9時20分から11時55分まで
2	場所 WEB (Zoom)
3	出席委員 商工労働局地域経済支援担当部長 総務局DX推進課長 商工労働局中小企業支援課長 商工労働局産業人材課長 商工労働局経営革新課担当課長
4	議題 令和8年度生成A I を活用した経営支援モデルの構築に向けた実証業務公募型プロポーザルに係る第2次審査(プレゼンテーション審査)について
5	担当部署 商工労働局経営革新課
6	開催方法 オンライン (Zoom)
7	<p>第2次審査に進んだ3者の中から、第2次審査の結果のみで最優秀提案者を決定することとし、選定委員会において、プレゼンテーション審査を行い、最も得点が上位の提案者を最優秀提案者として選定した。</p> <p>A社：アデコ株式会社 F社：ライフイズテック株式会社 G社：株式会社グラファー</p> <p>各選定委員の主な評価・選定理由については、次のとおりである。</p> <p>【A社】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ これまでの支援実績を基に、仕様書で示している内容を超えた、現実的で独自性の高い提案となっている。 ・ 漠然と経営支援業務全体を対象とせず、その中で生じるタスクを助ける仕組みとして構築していることは非常に有用と考えられる。一方で、それぞれのタスクと作業自体は単純なものであり、「『どう使うか』だけなら教えてもらわなくても良い」と考える参加者もいるのではないかと、また、事業全体の成果が伝わりにくいのではないかと懸念もあるため、パッケージとしての価値をどこまで分かりやすく伝えられるか、工夫が求められる。 ・ 現状の課題感を的確にとらえ、提案が行われている。

		<ul style="list-style-type: none"> ・ 「7つの汎用タスク」を起点に据えた点や、独自のH-BARS指標を用いた可視化など、業務の実態と定着に焦点を当てた点が評価できる。 ・ AIが活用できる範囲に関する独自性と、事業のプロセスが明確かつ具体的であり、参加者が取り組み易いものであると評価する。 ・ 実務に適合させるために、現場の意見を踏まえて、業務プロセスではなく、7つの汎用タスクで、プログラムを設計されている点について評価できる。また、現場の軽減負担にも配慮されている。” ・ 業務プロセス単位ではなく、経営支援業務を横断する7つの汎用タスクを起点として支援モデルを構築する視点は他社にはない提案であり、納得感がある。また、モデル構築後の運用定着に向けた取組についても十分配慮されている。 <p>【F社】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 研修主体で一歩ずつ使用場面を増やしていくという着実な成果につながる提案であり、その点では評価できるが、上位層を伸ばして一気に引き上げるような挑戦的な発想が見られないことが残念である。 ・ 業務趣旨を深く理解し、提案がなされているものの、やや具体的なAI活用等のイメージ像が十分でない。 ・ 進め方自体はシンプルで分かりやすく、共感が得られやすいと感じる。 ・ 参加者における実証事業における特色のある工夫や、令和9年度以降の展開についても工夫が見られ、全県下での取組の拡がる可能性を秘めていると考える。 ・ 次年度以降を見越して展開できるように工夫はされているが、支援内容ごとに業務を棚卸する点について、作業が複雑になるのではないかと感じた。 ・ 自由提案を含め、全体的にバランスのとれた充実した内容の提案となっている。一方で、これまでの経営指導員向けの受託業務の実績を踏まえたプロトタイプ的设计に向けた仮説設定などについて、もう少し踏み込んだ具体的な説明が欲しかった。 <p>【G社】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 当事業の目的や趣旨を正しく理解して、よく練られたプログラムと効率的な進め方が提示されており、評価できる。 ・ この業務は行政相手ではなく、商工団体、さらにその中の経営指導員の実践を支援するものであり、経営支援に係る業務経験の浅い事業者が2名だけでさばくのは無理があるのではないかと懸念する。一つ一つの作業にかかる時間の見込みの甘さも気になるところである。
--	--	---

		<ul style="list-style-type: none">・ 団体の性格に合わせた3つの組織展開パターンの提案や、自社AIツールの無償提供など、目的を理解した提案である。一方で、支援員にとってややフォローが物足りず、負担に感じるところも多いのではないかと懸念される。・ 課題認識は明確であるものの、その解決（実証事業）や令和9年度以降の展開が少し具体的でないことが残念である。・ 「経営支援モデルの自立的普及」と「参加型プログラム設計」に関しては評価できる。・ 各取組の内容についてはコンパクトかつ分かりやすくまとめられている一方で、もう少し各内容について具体的なイメージができるような説明が欲しかった。
--	--	--